

大阪大学図書館報

Vol. 17, No. 2 June 1983

目

- 図書館のプランタイプ
- 蛋白質研究所創設25周年にして思うこと
- 研究者向けの長期貸出について
- 昭和57年度国立大学等図書館間文献複写実績について

次

- いちょう祭展示会開催
- 業務機械化準備日録（3）
- 会議
- 日程
- 館内の動き
- 人事

図書館のプランタイプ

岡田光正

住友家の家長十五代住友吉左衛門友純が、図書館の建物一式と図書基金を大阪府に寄付することを知事菊地侃二に申出たのは、明治33年のことであった。これよりさき明治29年、大阪市会では図書館新設の案が僅か二票差で廃案となっていたという事情もあり、この申出は感動を以って迎えられたという。

敷地1000坪は府が提供することに条件として、住友本店臨時建築部は、当時の新進建築家、野口孫市を技師長として、直ちに設計に着手、明治37年はじめには竣工、引渡しが行なわれた。これが現在の大阪府立中之島図書館である。

当初のプランは図1のような十字型で、中央に吹抜の円型ホールがある。壁は外側に花崗岩、内側に煉瓦を積み、梁には鉄骨が用いられた。意匠は古典様式によるネオクラシズムのスタイルで、正面は、高い基壇の上にコリント式の柱が大きな切妻破風を支えるという堂々たるデザインである。このファサードは今でもよく保存されているが、間に建った市庁舎に圧迫されるような景観になったのは残念である。

プランでは、書庫や閲覧室にくらべてエントランスからホールにかけてのスペースが、やや大きすぎるようみえる。これは、記念性にウエイトがおかれていたからであろう。

十字型のプランは、三方向に増築可能で、成長と変化に対応しやすい。とくに、人工照明に頼ることの少なかった戦前では、図書館のプランタイプとしては一般的なものであった。

この図書館でも、累積する蔵書数に対処するため、先ず大正5年に書庫が背後に増築され、ついで大正11年には左右両翼に閲覧室などが付け加えられた。これが図2である。大きすぎるように思えた当初のエントランスホールは、この段階で、すでに、ほどよいプロポーション

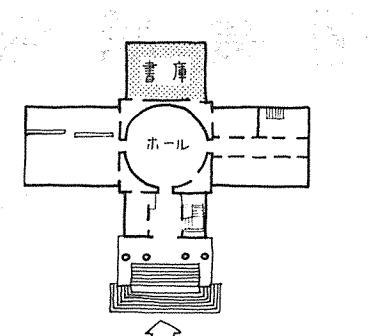


図1 大阪図書館(明治37年)
十字型のプランで、中央のホールが
目立って大きい。

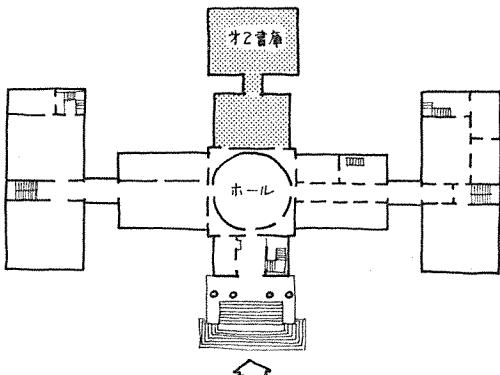


図2 増築後の大阪図書館(大正11年)
書庫は大正5年、左右両翼の建物は
大正11年に増築された。

を書庫にしてもよいように積載荷重を見込み、柱も均等に配置したフレキシビリティの高いプランをつくる方式で、最近では図書館建築の主流を占めるが、実現した国会図書館は、どうしたわけかモジュラー方式ではなかった。したがって書庫の増築はむずかしいが、収藏能力は450万冊もあるので、このままでも20年は大丈夫だと安心していたかもしれない。

ところが、竣工後わずか6年たった昭和49年の時点で、書庫は数年のうちに満杯になることが判明、あわてて別館建設にとりかかった。別館は昭和61年竣工予定で750万冊の収蔵力を持つというが、現在の書庫を拡張するわけではないので、何を分けるかが問題である。基本方針としては、利用の多い逐次刊行物や科学技術資料を中心にするという。だが、本館と別館に分れるため、出納カウンターにおける閲覧者の平均待時間20~40分という、あまりよくない現状のサービスに加えて、何か調べようとすれば本館と別館の間を行ったりきたりすることになるかもしれない。

いずれにせよ、これほど蔵書数が多くては、閉架式であろ

ンになっている。なお、国の重要文化財に指定されたのは、この本館と左右両翼で、いずれも住友の寄付による部分である。

府立中之島図書館は、その後、数回の増築を重ねながら、80年にわたって機能を維持してきた。これは関係者の努力もさることながら、もともと成長と変化にたえられるプランタイプだったからであろう。

ところが、同じ閉架式の書庫でも、図3のようなプランでは増築は容易ではない。これは国会図書館であるが、書庫を中心におき、それを取り囲んで事務や閲覧関係の部門がある。どうして、このようなプランになったのであろうか。

この建物は設計コンペによったものであるが、募集に先立って事務局は、中央書庫式、下部書庫式、周辺書庫式、後部書庫式という四種類のタイプを検討し、結局モジュラーシステムによる中央書庫式を採用することにした。その理由は、各部局から書庫への距離が近くて均等であること、および米国議会図書館が中央書庫式だからということであった。

このモジュラーシステムというのは、どこ

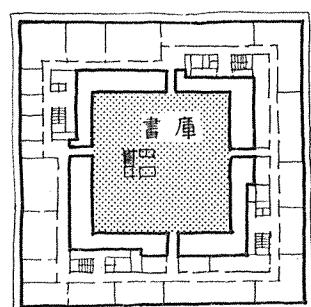


図3 国会図書館
中央部の書庫は外周の建
物とは光庭をはさんで、
半ば独立している。

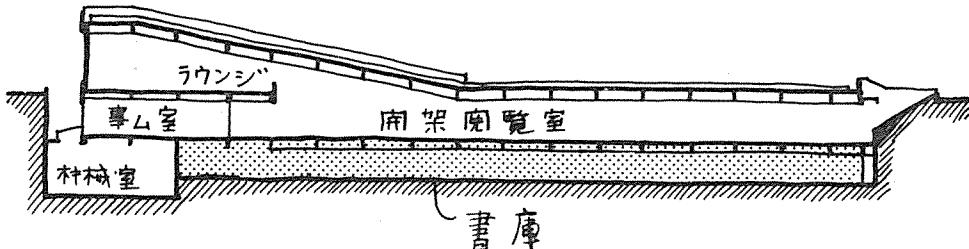


図4 同志社女子大学図書館(断面図)
歴史のある庭園を保存するため建物の
ほとんどを地下にもぐらせている。

うと、開架式であろうと、目的の本を探し出すことは容易ではない。英米では毎年、全蔵書の5~10%を除籍しているという。わが国では除籍率は年に1%以下である。また、アメリカの大学では利用性を確保するため、とくに学習図書館では蔵書数を一定に押えている例が多い。

図4の同志社女子大学図書館は由緒ある庭園を保存するため、建物のほとんどを地下におさめた例である。環境条件を優先させることが至上命令だったからで、これはやむをえないケースであろう。

これほどの制約がなくとも、土地が窮屈になると書庫と閲覧室を上下に重ねることになり、その場合、書庫は窓はなくともよいから地下へということになりやすい。だが地下室は地上

部の3倍もコストがかかる。しかも、防水、防湿、換気などの基本的な性能を長期にわたって維持するには、かなりの努力と費用を要するので、安い考え方には許されない。ある国立大学の図書館は、敷地が斜面だったこともあって、書庫の一部を地下にしたところ、湿気がひどくて使いものにならず、せっかく収納した蔵書を引き上げたという。

甲南大学では、水害で下層部の書庫がやらされたという苦い経験から、図5のように閉架書庫を最上階に上げ、アクセスの容易な1、2階を閲覧室や事務室とした。トップヘビード構造上は若干不利になるが、機能的な解決である。

図6は中央大学が神田にあった頃の図書館で、ビル街にあるため、中間に書庫をはさん

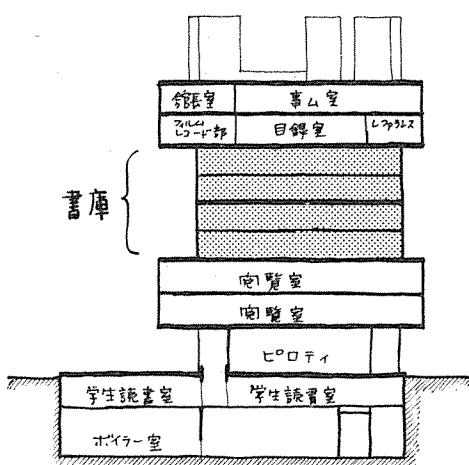


図6 中央大学図書館(神田)
市街地のため、高層化された
ものである。

で上に事務室、下に閲覧室を配したユニークな高層型の構成だった。敷地に対する効率は最高である。

こういうタイプでは、おそらく増築は考えられていない。想定されたとすれば、むしろ改築である。とくに、最近の建物は寿命が短かく、鉄筋コンクリート造でも平均33年で取りこわされるというデータがある。これは法定耐用年数の約半分にしかならない。人間と同じように、日頃のメンテナンスによって、寿命はかなり違うが、ライフサイクルによる改築の問題は今後の重要なテーマである。

ただし、紙をつくる過程で使用される硫酸化合物のために、洋紙は80年でボロボロになるというから、そんなにさきのことなど心配しなくてもよいであろうか。

(前吹田分館長 工学部建築工学科教授)

蛋白質研究所創設25周年にして思うこと

最近は、日常茶飯時に使われるようになった「タンパク質」も、30年前、生物科学におけるタンパク質を中心とした総合研究センターの必要性が、赤堀教授（元総長、名誉教授）を中心とした研究者の中で強く望まれていた。そして、昭和33年4月1日、大阪大学蛋白質研究所は、全国共同研究所として正式に発足を見たのである。

創設後25年、3度の移転を経て、昭和47年3月に現在地の吹田キャンパスに移転、54年度に結晶解析センター棟、超伝導核磁気共鳴装置棟を加えて、充実した施設・設備をそなえた共同研究所として、国内は勿論、海外の学・研究者との交流も多く、この分野の研究発達は、めざましいものである。生命の分子レベルでの究明へと、急速な進歩は生化学分野の資料の増加を見ても明らかである。

ちなみに、現在の図書室は、研究所が中之島キャンパスの医学・生物系図書館である中之島図書館に隣接していたので、新着雑誌を主とした資料室にすぎなかったが、昭和47年吹田キャンパスへの移転を機会に、バックナンバーも移して中之島図書館の分室として運営することになった。図書室は、研究棟の2階で南に面した明るい閲覧室と、1・2階の書庫を含めて約770m²、蔵書冊数1万冊余りの小規模な図書室である。

理想を掲げてみても、人も予算も限りがあるので、小さいながらも研究所らしい図書室としてユーザーのニーズに応えるようにしたい。幸い図書館間の相互協力も行われ、コピーも要易になった今日、不足の資料は大規模図書館にお願いして、この図書館に必要なことは情報検索によるサービスと共に、第一線で活躍される研究者にとって必要な、最新情報の入手である。近年、蛋白質研究奨励会（財団法人）から、多くのカレント誌を航空便で入手して、寄贈して頂いているので、いち早く情報に接することができる。又、国内外の学会や会議に出席された研究者からホットな情報を頂くなど、やっと図書館らしい形態をそなえて来た様に思う。

研究所創設25周年を迎えた今年、はからずも学術情報の一環として図書館業務電算化システムを導入され、情報検索の機械化と相俟って、全国ネットワークで学術研究の躍進に助成出来るものと思う。

(山口賀代子 蛋白質研究所図書室主任)

25周年記念「タンパク質一生命を担うこの身近で不思議な物質」

(出版物) (財) 蛋白質研究奨励会編 東京化学同人 145頁

(テレビ) 昭和58年10月1日～12月24日 毎週土曜日 午前8時15分～9時

サンテレビ・KBS京都テレビ

研究者向けの長期貸出について

研究閲覧棟増築（昭和56年3月完成）を契機として、本館には各学部資料室、研究室より、研究用図書が多数搬入されています。また、南北校図書等の再整理事業の進行、大型コレクションの購入等もあって、研究閲覧棟には現在約38万冊の図書が所蔵されています。

これらの、研究用図書の利用（貸出）については、従来の短期貸出システム、貸出カウンターの掛員数では、十分な対応ができませんでしたが、今回の機械化で長期貸出が機械処理できるようになりました。

以下、利用の概要をお知らせします。

冊数・期間

区分	冊数等	対象図書		利用者の所属する講座・学科等で購入した研究用図書	その他研究閲覧棟内に所蔵する研究用図書
		冊数	期間		
教官	冊数	500冊	1年	20冊	1年
	期間		更新限度なし		3回まで
	更新回数				
院生	冊数	20冊	6か月	10冊	6か月
	期間		2回まで		2回まで
	更新回数				
その他の研究者	冊数	10冊	3か月		
	期間				
	更新回数		2回まで		

対象利用者

- 本学所属の教官および院生、他の研究者
　　その他の研究者とは、研究生、受託研究員、名誉教授等のことです。
- 4年次卒業研究の学生については、一定期間に申請のあったものに対し許可します。

(対象資料)

- 本館に所蔵する研究用図書
　　ただし、雑誌については、長期貸出はしません。

その他 利用上の注意

- 貸出図書の確認のため、利用者ごとに貸出中図書リストを定期的に送付します。返却・更新等の期日をお守り下さい。
- 退官・転出・修了等の際は、他の人に引継ぐことなく、必ず図書館に返却して下さい。
- 長期貸出中の図書に、他の利用者からの閲覧請求があった場合、カウンターでは誰がいつまで長期で借りているかを伝えます。(長期貸出の場合のみです)

昭和57年度 国立大学等図書館間文献複写実績について

昭和57年度下半期の複写データ(78,000件)処理結果を4月末に文部省及び各大学図書館等に送付した。昭和57年度計では154,000件となっている。これは、複写データ処理センター業務開始当時(昭和54年度)と比べると37%増である。大阪大学における過去3年間の実績は下記の通りである。

なお、今回は本学附属図書館の業務電算化新システムによって処理されたものである。

本学附属図書館の依頼・受付件数

館名	本学附属図書館の依頼・受付件数									昭和 55年度	昭和 56年度	昭和 57年度			
	昭和55年度			昭和56年度			昭和57年度								
	校費	私費	合計	校費	私費	合計	校費	私費	合計						
本 館	130	249	379	204	209	413	215	160	375	921	1,466	1,695			
中之島分館	18	488	506	21	393	414	108	359	467	7,321	9,346	9,522			
吹田分館	400	28	428	280	19	299	444	19	463	798	945	1,055			
薬学部分室	84	66	150	102	69	171	173	72	245	144	198	274			
人間科学部分室	106	106	212	92	94	186	120	57	177						
理学部分室	174	11	185	219	32	251	218	92	310	906	1,021	761			
基礎工学部分室	241	0	241	361	1	362	248	0	248	473	724	765			
微研分室	14	22	36	64	19	83	60	22	82						
産研分室	44	0	44	24	0	24	26	0	26						
蛋白研分室	44	0	44	51	0	51	29	0	29						
医短図書室	39	0	39	40	0	40	38	0	38						
合 計	1,294	970	2,264	1,458	836	2,294	1,679	781	2,460	10,563	13,700	14,072			
(対昭54年度比)			(115.5)			(117.0)			(125.5)	(138.2)	(179.3)	(184.1)			

いちょう祭展示会開催

本学の創立記念日を祝して、「大阪大学いちょう祭が、5月2日(月)と、5月3日(火)にかけて盛大に開催された。5月2日(月)には、講演会、吹田・豊中両地区の学内施設開放、展示会、映画会等が開催された。

図書館では、文学部・附属図書館共催による展示会が開かれた。この展示会は、2日(月)午前11時から、午後4時まで、本館、第2自由閲覧室(3階)を会場にして、学生・父兄および、教職員等、約330名の参観者があり、盛況のうちに終了した。

なお、展示会では、本学とゆかりの深い懐徳堂関係資料、多数が公開された。特に、貴重な軸物、器物類、屏風、肖像画類を中心に、「重建懐徳堂」、「懐徳堂をめぐる人々」等のパネル写真をも加えて、約43点の資料が展示された。

展示内容の概要是、次のとおりである。

○文学部：菊章刀子(古綿襪袋入)、懐徳堂絵図屏風、竹山履軒先生張交屏風、帰馬放牛図(谷文晁筆)、文清先生遺像、竹山先生画像(中井藍江筆)、懐徳堂幅(三宅石庵筆)、懐徳堂記帖(三宅石庵題字、中井竹山撰並書)、古賀精里書幅、柴野栗山書幅、草茅危言(中井竹山手稿)、越組弄筆(中井履軒手稿)老婆心(中井履軒手稿)、出定後語(富永仲基撰)ほか、29点。

○いちょう祭委員会：

本学関係の文化勲章受章者(13人)の業績、出版物などの展示。

業務機械化準備日録(3) 昭和58年2月~5月

日 時	主 な 事 項	日 時	主 な 事 項
58. 1.28	幹事班会合(第17回) - 日本電気との報告会	58. 4. 5	図書WG会合
2. 7	日本電気幹部との打合せ会 - 基本問題について	4. 7	幹事班会合(第21回) - 日本電気との報告会
2. 8	図書W G・S E打合せ会	4.18	図書共通マスター・メンテナンス及び移行に関する会合(阪大一日電共通グループ)
2. 9	雑誌WG会合		図書WG会合
	運用WG会合(第23回)		雑誌WG会合
2.16	幹事班会合(第18回) - 日本電気との報告会	4.19	ネットワーク(学内・地域内)に関する検討会(第1回)
2.17	S-450共通マスターに関する打合せ会	4.20	幹事班会合(第22回) - 日本電気との報告会
2.22	理学部事務との打合せ会	4.25	ネットワーク(学内・地域内)に関する検討会(第2回)
2.23	S-450共通マスターに関する打合せ会	4.26	公用貸出に関する会合(阪大一日電共通グループ)
2.24	図書管理WG目録小委員会(第1回)(以下「目録小委員会」という)	4.27	運用WG会合(第28回)・S Eとの打合せ会
2.25	幹事班会合(第19回) - 日本電気との報告会	4.27	所蔵管理に関する会合(阪大一日電共通グループ)
3. 2	図書管理業務オペレーション指導(吹田地区推進班)名古屋大学附属図書館に研修出張(2名)	5. 9	雑誌管理業務全般的稼動
3. 3	書誌管理業務(雑誌)稼働	5.10	S-450共通マスター・メンテナンスに関する説明会、運用WG会合(第29回)
3. 7	目録小委員会(第2回)	5.12	図書管理業務全般的稼動
3. 8	集配信処理に関する打合せ会	5.13	新規受入図書の蔵書マスター、蔵書ファイルへの登録に関する会合(阪大一日電共通グループ)
	運用WG会合(第24回)	5.18	運用WG会合(第30回)
3.10	目録小委員会(第3回)	5.19	幹事班会合(第23回) - 日本電気との報告会
	九州大学附属図書館及び九州芸術工科大学附属図書館に研修出張(4名)	5.20	目録小委員会(第7回)
	大型計算機センターINQ説明会	5.24	目録小委員会(第8回)
3.15	目録小委員会(第4回)	5.25	文章入力オペレーション
3.17	幹事班会合(第20回) - 日本電気との報告会	5.26	S-450の保守点検
3.18	学術情報センターシステム開発調査協力者会議メンバー(4名)来館	5.26	阪大共通グループ会合
3.22	目録小委員会(第5回)	5.30	雑誌WG、受付帳票出力オペレーション
3.23	目録小委員会(第6回)	5.31	目録小委員会(第9回)
3.25	所蔵管理全般に関する会合(阪大一日電共通グループ)九州工業大学附属図書館研修出張(名)		図書共通マスター関係年度変換処理に関する会合(阪大一日電共通グループ)
3.28	運用WG会合(第25回)		
3.29	運用WG会合(第26回)		
4. 4	運用WG会合(第27回)		

[関 係 資 料]

- 大阪大学附属図書館業務電算化における研究・教育支援サービスの改善について
(1983.1) 小冊子P.8
- 電算化システムによる雑誌管理業務の概要
「大阪大学図書館報」vol.16 No 5/6 (1983.2)
- 電算化システムによる図書管理業務の概要
「大阪大学図書館報」vol.17 No.1 (1983.4)

会 議

—附属図書館中之島分館運営委員会—

58. 3. 7. (月) 14:30~16:00 (中之島分館会議室)

報告事項 1. 中之島分館図書選定小委員会の開催結果について 2. 歯学分室との連絡便についてそれぞれ報告があった。

協議事項 大阪大学附属図書館中之島分館閲覧内規の一部改正について種々協議の結果原案どおり承認された。

○

一分館長会議—

58. 3. 15 (火) 14:00~17:00 (館長室)

報告事項 1. 大阪大学学術情報問題懇談会について 2. 図書館業務電算化システムについて 3. 昭和58年度外国雑誌の購入について 4. 大阪大学附属図書館利用内規の一部改正についてそれぞれ報告があった。

協議事項 1. 図書館委員会規程等の一部改正について 2. 昭和59年度図書館新規概算要求書(案)について 3. 昭和58年度図書館事業費予算要求書(案)についてそれぞれ協議の結果原案どおり承認された。

○

一図書館委員会—

58. 3. 22 (火) 14:00~17:00 (本館会議室)

報告事項 1. 大阪大学学術情報問題懇談会について 2. 図書館業務電算化システムについて 3. 昭和58年度外国雑誌の購入について 4. 大阪大学附属図書館利用内規の一部改正について報告があった。

協議事項 1. 図書館委員会等の一部改正について 2. 昭和59年度図書館新規概算要求書(案)について 3. 昭和58年度図書館事業費予算要求書(案)について種々協議の結果原案どおり承認された。

○

—附属図書館豊中地区運営委員会—

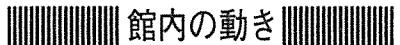
58. 3. 22 (火) 13:00~14:00 (本館会議室)

協議事項 1. 昭和58年度基本参考図書について 2. 大阪大学附属図書館個人参考用長期貸出図書取扱要領(案)について 3. 豊中地区運営委員会規程の一部改正についてそれぞれ協議の結果原案どおり承認された 4. 次期豊中地区運営委員長の選出について現委員長経済学部大澤豊教授の任期満了にともない、選挙方式により法学部矢崎光圀教授が選出され次期委員長に決定した。

日 程

- | | |
|----------------------|---------|
| 58. 3. 7. 中之島分館運営委員会 | (中之島分館) |
| 58. 3. 15. 分館長会議 | (本館) |
| 58. 3. 22. 図書館委員会 | (本館) |

58. 3. 22. 豊中地区運営委員会 (本館)
 58. 3. 29. 第3回学術雑誌総合目録データ編集協力委員会 (東京大学)
 58. 4. 15. 近畿地区国公立大学図書館協議会 (京都大学)
 58. 5. 18. 第12回国公私立大学図書館協力委員会 (一橋大学)
 58. 5. 23. 国立大学図書館協議会常務理事会 (昭和57年度第3回) (東京大学)
 58. 5. 23. 国立大学図書館協議会理事会 (昭和57年度第3回) (東京大学)
 58. 5. 24. 昭和58年度国立大学附属図書館事務部課長会議 (東京医科歯科大学)
 58. 5. 25. 外国雑誌センター館会議 (東京工業大学)
 58. 5. 26. 日本国書館協会評議員会 (昭和58年度第1回) (日本図書館協会)

 館内の動き

図書館オリエンテーション

4月8日入学宣誓式当日、三川館長より新入生を対象とした図書館概要についてのオリエンテーションが行われた。また4月13日から6日間（計8回）は図書館利用の説明と館内案内を行い、335名の参加があった。

吹田分館の夜間開館9時まで延長

吹田分館では6月1日より、吹田地区の図書館サービスの強化、充実を図るため、3時間延長し午後9時（土曜日は午後6時）までの開館時間となった。すでに本館、中之島分館は実施しており、これで各地区とも足並が揃うことになる。なお、夜間業務の詳細については、吹田分館までお問い合わせ下さい。

 人事

58. 3. 30. 辞職 八木 敬子 閲覧課閲覧第三掛事務補佐員
 58. 3. 30. 辞職 山田 まり 医学情報課目録掛事務補佐員
 58. 3. 30. 辞職 高見 昌利 医学情報課運用掛事務補佐員
 58. 3. 30. 辞職 和田英里子 医学情報課運用掛事務補佐員
 58. 4. 1. 配置換 前田 正三 九州大学附属図書館学術情報課長（医学情報課長）
 58. 4. 1. 配置換 石川 亮 医学情報課長（筑波大学図書館部学術情報課長）
 58. 4. 1. 昇任 門田 泰典 筑波大学図書館部学術情報課長（整理課長補佐）
 58. 4. 1. 昇任 尾崎 一雄 整理課課長補佐（吹田分館運用掛長）
 58. 4. 1. 転任 伊藤 祐三 整理課学術情報掛長（筑波大学図書館部学術情報課情報処理係長）
 58. 4. 1. 配置換 橋本 健一 吹田分館受入掛長（閲覧課参考掛長）
 58. 4. 1. 配置換 藤川 俊三 閲覧課参考掛長（吹田分館受入掛長）
 58. 4. 1. 配置換 榎本 吉幸 核物理研究センター総務掛庶務主任（整理課庶務掛主任）
 58. 4. 1. 配置換 村尾 泰雄 整理課庶務掛主任（言語文化部庶務掛主任）
 58. 4. 1. 配置換 小東 義貴 医学部附属病院医事課（整理課会計掛）

58. 4. 1. 転任 市川 順 整理課会計掛（大学入試センター事業部事業課）
 58. 4. 1. 配置換 諏訪 敏幸 整理課学術情報掛（閲覧課参考掛）
 58. 4. 1. 配置換 片山 俊治 整理課学術情報掛（整理課庶務掛）
 58. 4. 1. 配置換 驚野 圭子 微生物病研究所（閲覧課雑誌掛）
 58. 4. 1. 配置換 宮内 修 閲覧課雑誌掛（閲覧課参考掛）
 58. 4. 1. 配置換 谷本 美寿 医学情報課目録掛（医学情報課運用掛）
 58. 4. 1. 配置換 中嶋 聞多 医学情報課運用掛（医学情報課目録掛）
 58. 4. 1. 配置換 金子 真弓 整理課会計掛事務補佐員（整理課庶務掛）
 58. 4. 1. 配置換 深森 嘉子 閲覧課閲覧第三掛事務補佐員（整理課洋書目録掛）
 58. 4. 1. 配置換 坂田麻美子 整理課洋書目録掛事務補佐員（整理課和漢書目録掛）
 58. 4. 1. 配置換 松浦キヨノ 閲覧課雑誌掛事務補佐員（閲覧課参考掛）
 58. 4. 1. 採用 浅野 正浩 整理課庶務掛
 58. 4. 1. 採用 濱 美恵子 整理課受入掛事務補佐員
 58. 4. 1. 採用 指 昭博 閲覧課参考掛事務補佐員
 58. 4. 1. 採用 難波 勝也 閲覧課閲覧第一掛事務補佐員
 58. 4. 1. 採用 松本 英彦 閲覧課閲覧第一掛事務補佐員
 58. 4. 1. 採用 鶴川 充 医学情報課運用掛事務補佐員
 58. 4. 4. 採用 井澤 陽一 医学情報課運用掛事務補佐員
 58. 5. 1. 転任 井関 泰夫 国立民族学博物館（医学情報課目録掛）
 58. 5. 1. 配置換 相馬 由美 医学情報課目録掛（人間科学部）
 58. 5. 10. 採用 中村 律子 医学情報課目録掛事務補佐員
 58. 6. 1. 採用 北岡 一夫 吹田分館運用掛事務補佐員
 58. 6. 1. 採用 三宅 豪 吹田分館運用掛事務補佐員
 58. 6. 1. 採用 平木 明敏 吹田分館運用掛事務補佐員
 58. 6. 1. 採用 畠山 耕一 吹田分館運用掛事務補佐員
 58. 6. 1. 採用 鄭 雨光 吹田分館運用掛事務補佐員
 58. 6. 1. 採用 厚見 卓也 吹田分館運用掛事務補佐員

大阪大学附属図書館吹田分館長交替

58. 3. 31. 任期満了 岡田 光正（工学部 教授）
 58. 4. 1. 就任 山根 壽己（工学部 教授）

附属図書館事務部組織変更

昭和58年4月1日付けで整理課学術情報掛を設置した。